

第7章 中央本線（木曾福島～中津川）

第1節 1日目：7月20日（日）：木曾福島～南木曾 晴れ

木曾福島(10:30)～上松(12:36)～倉本(14:40)～須原(15:54)～大桑(16:45)～野尻(17:28)～十二兼(18:21)～南木曾(19:35)

夏の青春18切符活用の第一弾は、平成20年7月20日（日）～21日（月）に実施。本来ならば19日（土）と20日（日）の両日に行ないたかったが、生憎青春18切符は7月20日～9月10日の期間限定のため本日程となった。梅雨もあけたとのことで、数日前に中津川から塩尻間の挑戦を思いつく。時刻表や宿泊先を考慮し、コースの選定を19日（土）の午前中に行なう。宿泊先を中津川にし、どの駅から中津川まで歩くかを検討する。電車の本数も少ないこともあり、ダイヤと営業キロを視野に入れ綿密に計画を練る。その結果、木曾福島または上松（あげまつ）からとする。後は明日の鉄道沿線や体調を考慮し決定することにする。

4時に起床。南林間5時30分発の電車で町田駅に向かう。以下、町田から現地までの足取りは次の通り。

町田 5時46分→八王子 6時11分

八王子 6時35分（高尾 6時42分）→塩尻 9時58分（松本行き）

塩尻 10時3分→木曾福島 10時30分（ワイドビューしなの6号）

特急の利用は甲府辺りで思いつく。各駅は10時50分となり、塩尻駅で52分のタイムロスが生じるし、中津川から塩尻までの踏破が1日余計かかる恐れがあるため。また、特急のためアクセス時間も節約できる。塩尻から木曾福島までの特急料金が630円、乗車券が740円要したが、大英断であった。御蔭で90分位時間がうくことになる。それで、特急停車駅の木曾福島とする。初日の20日は木曾福島から南木曾までの34.2Kmに決定する。南木曾からは19時18分の中津川行きの始発もある。万一乗り遅れても20時26分の電車がある。そういうこともあり、木曾福島からの挑戦に決定する。この結果、二日目は中津川＝南木曾の山間19kmのコースに決まる。歩いての感想であるが、戦略的に最適なコース選定となる。



木曽福島駅

乗り継ぎ時間が 5 分程度、しかもお隣ホーム（階段使用）のため乗り継ぎに慌しかったが、塩尻から木曽福島までの 41.7Km を快適な気分で移動できる。塩尻から JR 東海となり、乗務員が変わる。景色も余り楽しめないうちに所要時間 27 分で、木曽福島駅 10 時 30 分に到着する。駅長と木曽観光連盟担当 2 名から出迎えを受ける。うちわ、タオル、観光案内等が入った袋を頂く。木曽福島は特急停車駅だけあり、駅前には観光バスや多数の観光客で賑やかであった。



中津川への路

木曽福島からの歩きは 10 時 40 分からとなる。国道 19 号線を中心に歩く。国道 19 号に沿って木曽川が流れる。丁度、富士川に沿って続く身延線と同様な感じであった。10 時 52 分名古屋まで 136km の看板を見つける。11 時 6 分、国道から歩道がなくなり 200m 位国道の下に続く回り道への歩きを余儀なくされる。11 時 12 分、直進は中津川・南木曽方面（19 号）、600m 先右折すると御岳山方面（20 号）の道路標識を見つける。11 時 18 分、木曽町営のバス停元橋前を通過。木曽っ子号と称する馬がバス停の看板に描かれていた。



木曾路



木曾の棧

この辺りで JR 線が左手側に来る。木曾福島から中津川にかけ、国道 19 号に対しトンネルを介し右手になったり左手になったりする。踏切越えというケースはなかった。11 時 25 分、下り松本行きの特急と対面する。11 時 35 分、木曾町板敷野を通過。11 時 40 分、木曾町から上松（あげまつ）町に入る。この辺りの標高は 740m とあった。この近郊は倉本線とあった。11 時 53 分、木曾川に跨る赤い木曾の棧（かけはし）があった。この橋は長野県史跡に指定された旨の柱が建てられていた。12 時 20 分頭上を JR 線が横切る。



釣り人

上松駅

12 時 20 分、国道 19 号線上にあるひのきの里上松トンネル（850m）を通らず、JR 線に沿う町道に方向転換し歩く。この交差点は田沢とあった。夏祭のちょうちんが沢山駅前にある上松駅には 12 時 36 分到着。12 時 50 分、上松小学校前を通過。駅前には食堂らしい店はなかった。開店休業なのか、それとも日曜日のためかシャッターが下りていた。20 m 位の急な階段を上り国道 19 号に戻る。13 時、やっと喫茶鎌倉という店を見つけ入る。店

に入ると 10 歳位の小学生の少女が冷房の効いた部屋で宿題をしていた。私が入るや否や手を止め冷たい水を持ってきてくれる。野菜ラーメンを注文する。20 分位体を休める。この食堂で万歩計の故障に気づく。



喫茶鎌倉 上松宿

この店から少し行った先に上松宿 (13 時 24 分) の看板があった。蕎麦屋等の沢山の店があった。昼食の選定に多少後悔が残る。寝覚 (ねざめ) の床、大宮神社、小野の滝への看板があった。トンネルを經由し JR 線が左手側になる。滑川側歩橋を通り、木曾八景と記された小野の滝には 13 時 51 分到着。私と同じ年格好の男性が滝の前で暑さを凌いでいた。一組の若いカップルと滝前で接する。このカップルと倉本駅まで同じ進路となる。13 時 56 分、上松町荻原を通過。14 時 11 分、下河原という地名で名古屋まで 124Km という看板を見つける。14 時 15 分、南木曾まで 22Km の道路標識前を通過。



小野の滝 倉本駅

駅名が消えかかった倉本駅には 14 時 40 分到着。この駅の近くには民家がなかった。ここで、タオルをロストしそうになる。100m 位戻った先に本年 6 月修善寺旅行した際に頂いた指月荘のタオルを見つける。今度はウォーキング記録手帳をロストしたのに気づく。タオルを探しに行く際、倉本駅とタオルを落とした中間で大事な手帳を落としていた。タオル・手帳のロストフォローに 10 分程度要する。しかし両者とも無事見付き安堵する。15 時、桃山辺りで強いにわか雨に出遭う。15 時 6 分、お茶とにわか雨凌ぎでサークル K (木曾上松店) に入る。このコンビニから須原駅まで 50 歳位の旅行者と。15 時 30 分、大桑村上郷を通過。15 時 40 分、雨はいつの間か上がり晴れとなる。



須原宿



須原駅



大桑駅

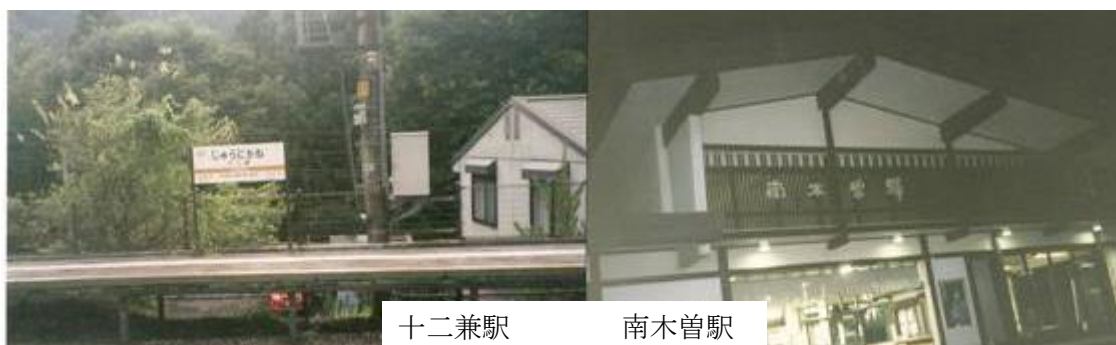


野尻駅

15時51分、須原宿の看板を見つける。須原駅には15時54分到着。須原駅前の通りは江戸時代の中山道宿場町の様相が漂う町並みが続いていた。16時5分、浄成山定勝禅寺前を通過。ここから路なり行き国道19号から大きく離れるのに気づく。止むを得ず引き返す。10分程度ロストする。このロストで南木曾駅19時18分の電車には乗ることは不可能となる。16時25分、赤い伊奈川橋（故障した万歩計で172歩）を渡る。大桑駅には16時45分到着。17時いつの間にか右手にJR線があることに気づく。野尻駅には17時28分到着。

17時53分、野尻洞門（631歩）前に到達。このトンネルは明確な歩道がなく怖かった。このトンネルの通過に5分程度要する。18時10分、南木曾町に入る。駅舎のない十二兼（かね）には18時21分到着。18時29分、JR線が左手方向となる。19時10分頃辺りは暗闇となる。19号線で薄暗くなりかけたところで、南木曾町役場、南木曾駅の看板を見つけ安堵する。南木曾駅には19時35分到着。20時26分の電車で中津川駅に向かう。到着するや否やホテルの到着が遅れる旨を連絡する。50分位の待ち時間を利用して昨日横須賀から木曾川釣りにきたという人と世間話をする。退屈な待ち時間が一気に解消する。「昨日は野尻駅の駅舎に泊まった。本日は南木曾駅の駅舎に泊まる予定である。テントを担いできたが、本日の宿舎は広く、使用せずに済みそう。また、この近郊の天白公園でテントをはることも考えていた。本日は木曾福島のユースホステスも万一のことを想定し考えていた。しかし、アクセスの関係で中止した。」との談話をお伺いする。私の方からはウォーキングと脱メタボ関係について自慢話をさせて頂く。この釣り人と明日も再会し、町田までご一緒させて頂くとはい夢にも思わなかった。人生というのは神秘的なドラマであることを

改めて痛感する。



十二兼駅

南木曾駅

中津川駅には 20 時 45 分到着する。駅前からプラザホテル栄が分かる。ホテルには 21 時前に到着。建物の造りは東横インに似ていた。しかし、宿泊料は同じ位であるが、朝食についてはこのホテルの方が充実していた。チェックイン (505 号室) の際、明日の朝食について質問を受ける。ロビーの中に独立した喫茶コーナーがあった。別途料金 (625 円) を払えば無料のモーニングサービスから和食・洋食コースのいずれかに切り替えができるサービスがあった。洋食コースを注文する。洗面用具のひとつである櫛がないこと、自動ロックでないところは東横インに比べ多少見劣りはしたが。部屋に行ってから、駅近くのラーメン屋で野菜炒め定食を注文する。とても美味しかった。21 時 25 分、ホテルに戻り、ロビーの自動販売機で日本酒 (七笑：ななわらい) を購入し一日の疲れを癒す。本日の営業キロは 34.2Km で、充実感に浸る。平成 18 年 9 月 16 日 (土) 興津=沼津 (38.1Km) 以来の 30Km 以上の歩きとなったからである。首都圏の近場の大半は終了したため、30Km 以上の歩きの機会はなかなか得られにくくなった。関東圏以外の挑戦 (原則新幹線利用せず) の場合、アクセスに往復で少なくとも 10 時間程度要するからである。万歩計は故障のため、過去の統計データから考慮し、本日の歩き成果は 7 万歩とする。



プラザホテル栄

中津川駅

第2節 2日目：7月21日（月）：中津川～南木曾 晴れ

中津川(8:00)～落合川～坂下(11:02)～田立(11:58)～南木曾(13:50)

二日目の海の日である2008年7月21日（月）は、中津川から南木曾までの19.0Kmに挑戦する。6時半に起床し朝風呂に入る。7時ロビーの喫茶で朝食を摂る。隣のテーブルに家族連れ先客（7名）がいた。小子の初孫成志（1歳）位のお孫さんがいた。私と同じ位の年格好のお爺ちゃんがあやしていた。暫くではあるがホットな気分となる。本日の南木曾から八王子までダイヤは下記の通り。そのためには南木曾駅に14時位の到着が必要と判断。

南木曾 14時52分 → 塩尻 16時22分

塩尻 16時56分 → 大月 19時47分

大月 19時52分 → 八王子 20時45分



南木曾への路

安全を見て8時少し前にチェックアウトする。中津川駅（8時2分）に立ち寄ってから、南木曾駅を目指す。8時5分、100m位の大明神トンネルを通過する。トンネルを出た先で大通りにぶつかる。前方には山間となる。また、木曾川もあった。鉄道つたい歩きをしても行き止まりの可能性は高い。それで国道19号線を歩くこととする。左は下呂方面とあったが、左右どちらに進むか迷う。左手にあるローソン前で国道19号線に出方を尋ねる。鉄道の方向と離れるが、予想通り右手方向であった。8時22分、新地藏堂橋を渡った先で国道19号線に合流していた。国道19号を歩くことにする。しかし、三五沢という地名で暫く歩いた先で歩道（反対車線はあり）が途切れる。止むを得ず一般道に一旦出る。200m位歩いて寂れた陸橋経由で国道に戻る。8時43分、名古屋まで84Kmの地点である与坂バス停前（濃飛バス）を通過。その先に右折すると藤村堂・馬籠宿（まごめ）への道路標識があった。8時51分、中山道という看板を見つけたので、少し脇道に入る。落合五郎兼行（木曾義仲の家来）という遺跡前を通過し、暫く歩き国道に戻る。ガソリンスタンドがあり、直進すると南木曾・塩尻方面、右折すると藤村堂・馬籠宿方面であった。時間の関係で馬籠宿には立ち寄らず直進する。



中山道

落合五郎兼行



南木曾 17km表示地点

スキー場案内

南木曾 17Km、塩尻 94Km、松本 109Km という道路標識前を 9 時通過。この近辺は山裾を走っていた。概ね南木曾まで下りであった。夏の風物詩の蝉の合唱に本日初めて気づく。9 時 16 分、増田前バス停を通過。9 時 50 分、峠と思われる辺りで、おんたけスキー場 (69Km 先) や野麦峠スキー場 (83Km) 等の看板があり。10 時 4 分、馬籠宿の看板を見つける。



馬籠宿 釣り人

この近郊で急な坂を下り、木曾川に近づく。JR 線は見えず。真っ直ぐ行った先は木曾川を渡る路となっていたので、急遽道を変更し、急な斜面を歩き国道に戻る。途中農業用水溝で帽子の下に着用しているタオルを濡らす。今回のシリーズで唯一踏破できなかった落合駅の近郊と思われる辺りから本日 2 回目である。10 時 47 分木曾川に跨る弥栄橋を通過。通過した先にきりら坂下 (道の駅) があり。直進し JR 線を潜って右折し少し歩いた先に坂下駅 (11 時 2 分) があった。



坂下駅



蛇行した木曽川を横切る鉄道

坂下駅から 200m位鉄道つたい歩きする先でトンネルとなる。道も急に細くなり、歩く方向性に熟慮する。道を確認しようと考えたが誰も通行人には対面できず。道路標識を点検し、田立（ただち）方面に続くひんやりとする山間の細い道を進むことにする。木曽川が蛇行しており、JR 線が木曽川を何回も渡っていた。道路と JR 線がほぼ並行して続いているので安堵する。11時28分、JR 線を潜り右に出る。11時28分、岐阜県から長野県南木曽町に入る。暫く木曽川に沿った民家がある町道を歩く。11時42分、JR 線が突如道路下となり、JR 線の左側を歩くことになる。11時44分、木曽川の支流を渡る。



県境



田立駅



花馬の里



南木曽への路

11時58分、田立駅に到着。この駅には駅舎はなく、道路からはるか下にあった。塩尻駅手前のみどり湖駅と同じようなタイプの駅であった。注意深く歩かないとクリアできない駅であった。丁度名古屋行きの電車が通過して行く。駅前の看板には長野県無形民俗文化財指定の「花馬の里」があった。12時23分、JR 線を渡り JR 線の右に出る。国道19号線にぶつかる交差点田立入口に到着。ここから国道19号を歩くことにする。12時32分、青々

とした水がたっぷりある山口ダムに到着。少し行った先には新賤母トンネル（677歩）があった。このトンネルは歩道と車道が分離しており歩きやすかった。しかも途中からダムに沿って遊歩道の感じの歩道（屋外）となる。通過に9分程度要する。12時53分、南木曾大橋（418歩）に到着する。この橋を渡った先に木曾川に沿って読書発電所（13時）があった。この近郊で木曾川の支流が合流する関係で、再度吾妻橋（156歩）を渡る。13時3分、右折すると飯田方面に続く南木曾町妻籠（つまご）に到着。木曾川に山間に続く207mある吾妻洞門を潜る。このトンネルも歩道がしっかりあり歩きやすかった。トンネルを越えると渡島の交差点であった。この近郊で名古屋まで100Kmとあった。13時19分、JR線が頭上となる。JR線の左側となる。南木曾駅に近いことを察知すると同時に目標の14時までに南木曾駅到着が実現できる見通しがたつ。13時25分、神戸（ごど）の交差点に到着。南木曾駅まで700mの看板を見つける。13時39分、三留野（みどの）大橋を渡った先に県立蘇南（しょうなん）高校を見つける。交差点には福沢桃介記念館や天白公園への案内板があった。少し行き過ぎたが、13時50分、南木曾駅に到着。汗だくだくのシャツを洗面所で着替える。14時52分までの待ち時間を利用して、駅から1分位歩いた先のスーパーの2階にある石川で信州そば（14時10分～35分）を頂く。母と同じ位の年格好の女将と世間話をする。本日のウォーキングの功績に対しお褒め頂く。



名古屋から100Km地点 南木曾駅

この店から出た先で昨日夜お会いした柳澤氏と偶然再会する。まさに「旅は道ずれ世は情け」がぴったりの場面であった。南木曾駅から町田まで、色々世間話をしながら帰宅となる。帰宅は22時5分となる。本日の万歩計の記録は4万歩とする。二日間の営業キロも53.2Kmとなり、充実した二日間であった。今回のシリーズは俳句で表現すると、「汗まみれ 語り合う夢 木曾路かな」である。世の中は広いようで狭いものである。柳澤氏に再会するとは思わなかった。趣味の対象は異なるが、自分と同じようなタイプの人なので感銘が持てる人物であった。その人物と町田まで約6時間半ご一緒させていただき、趣味等を中心に大いに勉強させていただいた。